

アスリートの情熱

三雲 明美 さん

陸上競技



PROFILE
みくも・あけみさん 鹿児島市出身。40歳から本格的に陸上を始め、障害者のアジア大会や世界大会、全国障害者スポーツ大会に多数出場。陸上同好会「ブラインドランナーズ」の代表を務める。

「全身に風を感じながら、走り続けていきたい」

普段は鍼灸師として働いている三雲明美さん。実は世界大会に出場したり、日本記録も樹立した全盲のアスリートでもあります。先天性の視覚障害者だった三雲さんが陸上を始めたのは、鹿児島県立盲学校の専攻科に在籍していた時。滋賀県で開催されたびわこ大会に出場し、60メートル走でいきなり優勝します。しかしその後はいったん陸上から離れ、再び走り始めたのはくまもと大会出場を決めた40歳の時でした。

「それまでは伴走者なしで走りたいと考えていたのですが、砂場に突っ込んだり、ケガをすることもあって一緒に走り始めました。安心できますし、それまで以上に爽快感を感じることができました。」

試合は大会新記録で優勝。さらに練習を重ね、2000～02年にかけて100、200メートルで全盲女子の日本記録(当時)を樹立しましたが、残念ながら目標としていたアテネパラリンピックにはケガの影響もあって参加できませんでした。しかし「このままでは終わりがたい」と、05年に陸上同好会「ブラインドランナーズ」を設立。「走る仲間を増やす」「伴走者を育てる」という思いを胸に、現在月に2回ハートピアかごしまなどで汗を流しています。

「昔、ある指導者がおっしゃっていた『自分が努力す

るだけでなく、仲間を助け、後輩を育てて、社会に影響を与えるのが真のアスリート』という言葉、今でも大切にしています。この言葉が、同好会を設立するきっかけにもなりました。」

16年には鹿児島マラソンにも初参加。「挑戦する姿を見てもらい、協力者を増やしたい」と苦手の長距離に挑みました。「今一番の大きな目標は2020年のかごしま大会に出場すること。これからも全身に風を感じながら、体が動く限り走り続けていきたいです。」



「ブラインドランナーズ」の代表として、練習を引っ張る三雲さん。

選手と伴走者はガイドロープで結ばれているんだぶ～



かごしまっふ

2020年のかごしま国体・かごしま大会に向けて、会場地市町村ではさまざまな準備を進めています。実施競技とともにスタッフの声を紹介します。

垂水市

最高の準備で最高の舞台を

鹿児島のシンボル・桜島のすぐ隣にある垂水市。全国の高校サッカー強豪校や関西地区の大学準硬式野球部を中心に、スポーツ合宿も盛んに行われています。かごしま国体では、フェンシング(正式競技)、綱引(公開競技)、スポーツチャンバラ(デモスポ)の3競技が実施されます。

昨年は日本フェンシング史上初の銀メダリスト(2008年北京五輪)太田雄貴さん(現日本フェンシング協会会長)をお招きして、市内の小中学生を対象に「わくわくどきどき夢教室」を開催しました。また、今年はフェンシング大会を開催し、併せて国体の会場としてふさわしい施設づくりにも取り組んでいます。これらの効果もあり、市民の気運も高まりつつあります。

私たちは、「日々の準備の大切さ」「地道な積み重ねの大切さ」の思いを胸に、かごしま国体の成功に向けて、垂水市民の英知と総力、おもてなしの心を集結し、最高の舞台で国体が結実するように、最高の準備をしていきたいと思えます。

○垂水市教育委員会社会教育課国体推進係 TEL:0994-32-7553

実施競技

- フェンシング
- 綱引【公開競技】
- スポーツチャンバラ【デモスポ】

垂水はカンパチの生産量が日本一(※)なんだぶ～!
※単一漁協



2月には大隅地方で初となるフェンシング大会も開催しました!

主催 迫田 和文さん 係長 美坂 康人さん 主事 福永 幸代さん 主催 川畑 正臣さん 参事 北迫 一信さん

夢教室

昨年1月に開催された「わくわくどきどき夢教室」にて、競技を見守る太田雄貴さん。



フェンシング教室

フェンシングに親しんでもらうため、大隅半島の小・中学生を対象にしたフェンシング教室も開講している。

かごしま国体・大会ホームページ



スマートフォン対応
スマートフォンやタブレットでも、最新情報をチェック。
鹿児島国体 検索

<https://kagoshimakokutai2020.jp/>

この広報紙の内容は2018年3月時点のものです。



燃ゆる感動 かごしま国体

第75回国民体育大会

2020年10月3日(土)～10月13日(火)



燃ゆる感動 かごしま大会

第20回全国障害者スポーツ大会

2020年10月24日(土)～10月26日(月)

カゴスポ

熱い鼓動 風は南から

vol.6
2018.3

2020

第75回国民体育大会・第20回全国障害者スポーツ大会広報紙



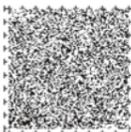
フェンシング/林 祥運 選手



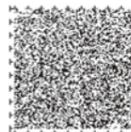
陸上競技/三雲 明美 選手

CONTENTS

- ▶2020年開催!! 燃ゆる感動かごしま大会(第20回全国障害者スポーツ大会)
- ▶インタビュー 尾塚 愛実さん「バレーに出会ったのは運命だった」
- ▶スポーツを知る ウェイトリフティング/フェンシング/グランドソフトボール/卓球
- ▶アスリートの情熱 三雲 明美さん(陸上競技)
- ▶かごしまっふ 垂水市



音声コード



音声コード

2020年開催!!

燃ゆる感動 かがしま大会

第20回全国障害者スポーツ大会



全国障害者スポーツ大会とは?

全国障害者スポーツ大会は、毎年、国民体育大会を開催した都道府県で開催される、障害者スポーツの全国的な祭典です。

障害のある選手が競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、多くの人々が障害に対する理解を深め、障害のある人の社会参加を推進することを目的としています。



鹿児島県での開催

第20回全国障害者スポーツ大会「燃ゆる感動かがしま大会」は、2020年10月24日(土)～26日(月)までの3日間開催されます。

「深めよう!ふれ愛の絆」「見つけよう!未来に輝く夢と希望」「届けよう!熱い思い」の3つを基本方針としています。

情報支援ボランティア研修会を開催しました。

かがしま大会に向けて情報支援ボランティアの活動内容を周知するとともに、ボランティア養成に向けた気運の醸成を図るため、2月25日(日)、ハートピアかがしまにおいて情報支援ボランティア研修会を開催しました。研修会には、180名の方が参加し、えひめ大会のボランティアリーダーの体験談等を熱心に聴いていました。



●実施競技

個人6競技、団体7競技の計13の正式競技と、オープン競技が実施されます。

競技名	会場地
陸上競技(身・知)	鹿児島市
水泳(身・知)	
アーチェリー(身)	
卓球(サウンドテーブルテニスを含む)(身・知・精)	
フライングディスク(身・知)	
ボウリング(知)	
バレーボール(身・知)	始良市
バスケットボール(知)	いちき串木野市
車椅子バスケットボール(身)	
ソフトボール(知)	南九州市
フットベースボール(知)	
グランドソフトボール(身)	指宿市
バレーボール(精)	鹿屋市
サッカー(知)	霧島市

※(身):身体障害者が出場できる競技、(知):知的障害者が出場できる競技、(精):精神障害者が出場できる競技

●ボランティア

ボランティアの種類	活動内容
大会運営ボランティア	開・閉会式や案内所での案内などを行う
情報支援ボランティア	大会に参加する聴覚障害者に手話や筆談などで情報提供を行う
選手団サポートボランティア	選手団の歓送迎や介助誘導などを行う

大会運営ボランティア、情報支援ボランティアについては、平成30年度から募集を開始する予定です。募集情報については、ホームページでも公開していきますので、ぜひご参加ください。



Interview

尾塚 愛実さん



PROFILE

おづか・あいみさん 1997年、阿久根市生まれ。生後間もなく感音性難聴と診断される。小学校からバレーボールを始め、2016年にデフバレー日本代表初選出。2017年トルコで開催されたデフリンピック夏季大会において日本の優勝に大きく貢献した。

「バレーに出会ったのは運命だった」

デフ(聴覚障害者)バレーボール女子日本代表として、昨年トルコで開催されたデフリンピックにも出場し、優勝した尾塚愛実さん。競技を始めたきっかけやその面白さについて伺いました。

—バレーボールを始めたきっかけは?

「小学校時代に友人に誘われて始めました。一つのボールをみんなでつないで、一本決めた時のうれしさ、達成感が気持ちよくてどんどんはまっていきました。小学校以来、ポジションはずっとアタッカーです。」

—デフバレーについて教えてください。

「デフバレーとは聴覚障害者(デフ)によるバレーです。ルールは一般のバレーとほぼ同じですが、補聴器は使用できません。そのため、手話やアイコンタクトなどで意思の疎通を図ります。実は私は手話があまり得意ではなくて(笑)、最初の頃は結構苦労しました。」

—デフバレーとの出会いは?

「高校時代から日本デフバレーボール協会関係者の方からお誘いをいただき、本格的に始めたのは高校卒業後です。鹿児島から神戸での合宿に何度か参加し、2016年の世界選手権に出場しました。結果は4位。私も非常に緊張して、悔しい気持ちでいっぱいでした。」

—その思いが、2017年に開催されたデフリンピックでの優勝につながったのでしょうか。

「そうですね。スタッフや選手一同、この大会で『絶対に金メダルを取る』という強い思いが芽生

えたのは確かです。大会でも、苦しい場面でも粘り強く戦い、お互いに声を掛け合って気持ちを切り替えようとしたのが勝因だと思います。」

—2020年には鹿児島で全国障害者スポーツ大会が開催されます。

「現在、鹿児島チームとして大会に参加するためにメンバーを大募集中です。ふるさとで開催されるこの機会に、ぜひとも出場したいですね。私と同じようにハンディキャップを持っていても、できないことは一つもないと思います。自分がやってみたいことにはぜひ挑戦して、誰にも負けないものを持ってほしいですね。もう11年バレーを続けていますが、私にとってはまさに運命の出会いだったと思います。」



2017年デフリンピック大会での尾塚さん。毎試合2桁得点の活躍でチームを優勝に導きました。

スポーツを知る

かがしま国体・かがしま大会で実施される競技の魅力を紹介します。

国民体育大会 ウェイトリフティング

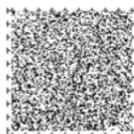
パワーだけでなく、繊細なテクニックも必要



競技が始まる前に自分が挑戦する重量を係員に申告します。(写真はスナッチ)

バーベルを持ち上げ、その重さを競うシンプルな競技、ウェイトリフティング。床の上のバーベルを一連の動作で一気に頭上に引き上げる「スナッチ」と、バーベルを胸の上まで引き上げ、そこから両足と腰の反動を利用して引き上げる「クリーン&ジャーク」の2種目があります。国体では体重別に男子が9階級、女子が3階級あり、選手はバーベルの重量を増やしながら3回の試技を行います。3回の試技で成功した最高重量が記録となり、それぞれの種目およびトータルで順位が決定します。

鹿児島県は過去にオリンピックや世界選手権大会などに選手を輩出しています。現在も長崎・和歌山国体で2連覇した下原卓朗選手のように実力のある選手がおり、かがしま国体での優勝を目指して強化を図っています。



音声コード

国民体育大会 フェンシング

息をもつかせぬスピードと駆け引き



「フルール」の有効面は胴体のみ(背中含む)。有効面は種目によって異なります。

フェンシングはフランス発祥の剣を用いるスポーツ。片手に持った剣で相手の有効面を突く、もしくは斬って規定のポイントを先取した選手が勝利となります。競技には「フルール」「エペ」「サーブル」の3種目があり、スピーディーな剣さばきや頭脳的な駆け引きが魅力です。国体では少年男女、成年男女ともフルールが毎年開催され、エペとサーブルは成年のみで男女交互に開催しています。

設立から50年以上の歴史を誇る鹿児島県フェンシング協会では、競技の普及を目指して小中高生を対象としたジュニア教室を継続的に実施しています。また、2020年の東京オリンピックおよびかがしま国体に向けて、合同合宿や県外遠征などジュニア世代の育成・強化にも力を入れています。かがしま国体では垂水市が会場地となっています。

全国障害者スポーツ大会 グランドソフトボール

音を頼りにプレーする「静かな野球」



弱視者や晴眼者でもアイシェード(目隠し)をすることで全盲選手としてプレーできる大会もあります。

グランドソフトボールとは視覚障害者の野球です。1チーム10人で競技し、全盲の選手が4人以上出場しなくてはなりません。投手は必ず全盲の選手で、捕手が手を叩く方にハンドボール(3号球)ほどの大きさのボールを投げ、打者はボールが転がる音を頼りにバットで打ちます。また、走者と野手の接触を防ぐために、守備用と走塁用のベースがあるのも大きな特徴です。

鹿児島県は全国障害者スポーツ大会にこれまで14回出場しており、そのうち5回の準優勝を誇ります。競技者の確保や対外試合を組むのがなかなか難しいなどの課題もありますが、体験会を実施したり県外での大会に参加するなど工夫を凝らして活動を行っています。かがしま大会は指宿市の開聞総合グラウンドで開催されます。これを機に指宿市との交流も生まれています。

全国障害者スポーツ大会 卓球(サウンドテーブルテニスを含む)

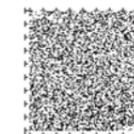
耳を澄ませ、「音を見て」打ち返す



STTはネットの下がおり、そこを通して転がすようにボールを打ちます。

全国障害者スポーツ大会の卓球種目は、卓球とサウンドテーブルテニス(STT)があります。卓球は通常の競技とほぼ同じですが、障害の種類や程度によってルールが工夫されています。また、STTは視覚障害者の競技で、金属球の入ったボールの転がる音を頼りにラバーの貼っていないラケットで打ち合います。試合ではアイマスクを使用し、年代別や障害の程度によってカテゴリーが分けられています。

STTを競技できる環境はまだ少ないですが、昨年は薩摩川内市や奄美市などで鹿児島県卓球連盟が普及活動を行っています。また、かがしま大会での上位進出に向けて、合同練習会を月に2回実施するなどの強化活動にも力を入れています。



音声コード